

二九精密機械

フエムト秒レーザー導入

高精度加工 新規需要を開拓 可能に

二九精密機械工業(本社=京都市南区、二九良三社長)は今年、フエムト秒レーザー加工機を導入する。高出力で高精度加工が可能な次世代レーザーで、これを医療器具関連などに活用して、新規事業の立ち上げを目指す。投資額は1億円。今秋にも京都工場(京都市南区)に設置、稼働させる予定。

1億円投資、今秋に稼働

同社はステンレス、チタン、特殊合金などの難加工材を機械精密部品向けに加工したり、分析・計測機器などの開発・組み立てを手掛けるメーカー。2012年から高強力性

に優れたβ(ベータ)チタンの極細パイプ(最小外径0.4mm、内径0.2mm)の社内製造をスタートさせ、ノズル製品までの一貫生産体制を築いている。

1加工機は、レーザーの波長のパルス幅がピコ(10のマイナス12乗)秒以下という超短で、超高出力のエネルギー

を作り出し、レーザーの電界により電子・電子から電子を直接引き取り、蒸発させることができる。従来のレーザーで生じる加工面のバリがなく、高精度の加工が可能になる。

同社はβチタンパイプの高精度スリット加工用にファイバレーザー加工機を有している

来期設備投資3億円

八木工場、拡張を視野

二九精密機械工業は来期(2018年3月期)の設備投資額を3億円と計画している。フエムト秒レーザー加工機に加えて、八木工

場(京都市南丹市)に切削加工設備を導入。それに伴い工場建屋の増築を進めており、さらには隣接地約3300平方メートルをこのほど取

得。将来の工場拡張に備える。
今春から順次導入する予定の設備はNC旋盤と台、堅型・横型のマシンングセンタ各1台、NC複合加工機2台など。設備増強に合わせて工場建屋を約170平方メートル増築している。また、買収した隣接地は造成中で、3年後あたりに工場を拡張させたい(二九社長)との構想だ。
また、本社ビルに隣接する土地約200平方メートルをこのほど取得。今後ビルを増築し、京都工場内にある開発部を本社に移管して、顧客対応や製品開発のスピードアップを図るため、営業部と同規模に集約する。

が、産業界でも珍しいフエムト秒レーザー加工機を新規導入して、需要開拓を目指す。レーザー加工機は海外製で、βチタンを製造する京都工場に8-9月導入する。投資予定額1億円のうち3000万円は、中小企業支援の公益財団法人「京都産業21」が募集する企業への「推進事業の採択を受けた補助金を充てる予定。また、フェ